水道料金を改定します

7月使用分（8月請求分）から

市は、水道料金を7月使用分（8月請求分）から改定します。改定のポイントは2つ。「料金の体系を口径別従量料金制にすること」「奥州金ヶ崎行政事務組合から水を受けること」です。改定の概要については広報おしゅう5月号お知らせ版にも掲載していますが、ここではより詳しくお知らせします。

※受水費…奥州金ヶ崎行政事務組合から受ける水の代金。これまでの施設整備、これからの運営管理費から算出された料金

料金統一までの経緯を教えてください

合併前の旧5市町村は、それぞれ水道料金が異なっていました。合併後も今まで、各自治区別々の料金（旧市町村当時の料金のまま）でしたが、合併協議で「平成20年度を目標に口径別従量料金制で統一する」ことで決定していました。

表10人（公募2人含む）、学識経験者5人からなる「奥州市水道事業運営審議会」を設置しました。審議会では、平成19年10月26日から20年2月15日までに5回の会議を開催、活発な議論を交わし、市へ答申をしました。市はこの答申に沿って「奥州市水道料金条例並びに奥州市簡易水道料金条例の一部を改正する条例」を3月定例議会に提案。市議会特別委員会の審査を経て、4月22日に開催された臨時議会で原案のとおり可決され、7月

1日から実施することになりました。

どうして料金を改定、統一するの

なぜ料金を改定、統一しなければならぬのか、その主な理由は次のとおりです。合併協議で、20年度を目標に水道料金を統一することが決定していた（同じ市民でありながら、自治区によって水道

料金が異なることは、公平性の観点から整えるべきことであること）

奥州金ヶ崎行政事務組合（旧胆江広域水道企業団）からの暫定受水が20年度から始まり、受水費が新たに約3億2000万円かかること

少子化などによる居住人口の減少、節水型社会の進行、長引く景気の低迷などに伴い使用水量が減少しており、給水料金収入が伸び悩んでいること

どういうふうに変わるの

水道料金の体系が次のようになり、7月使用分（8月請求

7月使用分（8月請求分）からの水道料金表

①基本料金（1カ月）

口径別	金額（円）
13mm	1,113
20mm	1,197
25mm	1,260
30mm	1,575
40mm	1,995
50mm	4,200
75mm	6,300
100mm	8,400

+

②従量料金（1㎡につき）

用途区分	水量区分	金額（円）
一般用	10㎡以下	65.10
	11㎡から20㎡まで	189.00
	21㎡から30㎡まで	203.70
	31㎡から50㎡まで	207.90
	51㎡から200㎡まで	212.10
浴場営業用	201㎡から1,000㎡まで	226.80
	1,001㎡以上	241.50
臨時用	300㎡以下	75.60
	301㎡以上	189.00
臨時用		252.00

※使用するメーター口径の大きさによって決まる「①基本料金」と使った水の量によって決まる「②従量料金」によって請求額が算定されます。①+②=1カ月の水道料金

分）から適用されます。

5自治区を口径別従量料金制で統一します

これまでは、水沢・前沢・胆沢・衣川区で用途別料金制を、江刺区で口径別従量料金制をとっていました。これを口径別従量料金制に統一するものです。用途別とは文字どおり、家事用（一般家事用）、営業用（飲食店・旅館・娯楽場など）、団体用（官公署・学校・病院・事務所など）、工業用（工場など）などの用途で分け、基本料金や使用分の料金が決定されるものです。

口径別とはメーターの口径で区分し、料金を決めるものです。用途別料金制の場合、基本水量制のため1カ月10立方メートルまでは使用水量にかかわらず一定の料金が掛かり、使用水量が少ない世帯では割高感がありました。新しい水道料金では、水道の使用にかかると固定経費を水道メーターの口径に応じて支払う基本料金と、使用水量に応じて支払う従量料金を合わせて料金が決まります。そのためメーターの口径が大きいほど、また、水を使用するほど単価が上がる仕組みです。これにより、より一層水道料金の公平性が図られます。20年度から、奥州金ヶ崎行政事務組合から水を受け、旧5市町村のころから各自治区はそれぞれで水源を持ち、そ

ちょっと教えて

- Q 前回の水道料金の改定時期はいつですか。**
A 直近では平成16年7月1日に旧江刺市で料金改定しています。江刺区にとって今回は4年ぶりの改定です。旧水沢市は14年1月1日に改定しており今回が約6年ぶり。旧前沢町は8年4月1日の改定で約12年ぶり。旧胆沢町は昭和57年4月1日改定で約26年ぶり。旧衣川村は昭和59年4月1日改定で約24年ぶりの料金改定です。
- Q 給水原価と供給単価はいくらですか。**
A 市全体の給水原価（仕入値）は、187.54円で、供給単価（売値）は163.15円です。1立方メートル当たり24.39円の赤字です。これを上水道事業でみると、給水原価は、163.80円で供給単価は165.21円で1.41円の赤字。一方、簡易水道事業の給水原価は、279.77円で供給単価は154.94円。124.83円の赤字です。今回の料金改定は、上水道事業会計を基準に改定し、その料金を簡易水道事業会計にも適用しており、料金改定後も簡易水道事業会計は引続き一般会計からの繰入を必要とします。

こから受水してしまいました。しかし自然環境の変化による地下水の水質悪化や水源の枯渇、更には未給水区域の解消を図り、より安定した水源と供給体制を確保するため20年度から奥州金ヶ崎行政事務組合から受水します。奥州金ヶ崎行政事務組合（以下「企業団」という）は、胆沢ダム利水計画に参画し、昭和63年2月に旧水沢市、旧江刺市、旧前沢町、旧胆沢町と金ヶ崎町の2市3町で設立されました。企業団は構成団体に対して平成26年から胆沢ダムを水源とする水道用水の本格供給を開始する計画でしたが、構成団体の水不足と未給水地域解消に対応するため、暫定的な措置として胆沢川を水源とする一部水道用水供給を本年度から始め、今回受水するものです。構成団体それぞれ第一期（20年度、25年度）の受水量と受水費は、旧水沢市4000立方メートルで1億7708万円、旧江刺市1660立方メートルで7302万円、旧前沢町340立方メートルで1412万円、旧胆沢町1290立方メートルで5550万円、奥州市全体として7290立方メートルで約3億1973万円となっており、これを20年度から水道料金で賄うこととなった